

長野県埋蔵文化財センターニュース

みすずかる

第17号

上信越道から立ヶ花表遺跡を望む

【トピックス】

たてがはなおもて

-中野市-

立ヶ花表遺跡



写真・須恵器の大甕が出土した第1号窯跡。
人が囲んでいる所が須恵器を置いた焼成部。
手前が燃焼部。

奈良時代後半の
窯跡かまあと



このくらいの大甕を
焼いた。

立ヶ花表遺跡は、古代の窯跡がひろがる高丘丘陵(たかおかきゅうりょう)の一角に位置する遺跡です。今年度の発掘調査では、須恵器(すえき)を焼いた窯跡が3基見つかりました。そのうちの1基(第1号窯跡)は保存状態が良く、燃料の木を投入する「焚き口(たきぐち)」、木を燃やす「燃焼部(ねんしょうぶ)」、そして須恵器を置く「焼成部(しょうせいぶ)」が残っていました。

須恵器の窯は、「登り窯」と呼ばれ、燃焼部から焼成部の床を斜めに作るのが一般的で、その斜面にあたる焼成部へ須恵器の製品を置いて焼きます。しかし、第1号窯跡は、こうした窯とは構造がやや異なり、焼成部の床面がほぼ平らで、いくつかのくぼみのあることが特徴です。そして、ここからは高さ1mを超えるような、大甕(おおがめ)の破片がたくさん出土しました。このようなことから、第1号窯跡は、主に大甕が焼かれていた窯で、その大甕が転がり落ちるのを防ぐために床面を平らに造り、くぼみに大甕を置いていたのではないかと推測できます。

平成20年度長野県発掘調査最前線！！

れきしょうもつかんぼ
大小さまざまな礫床木棺墓

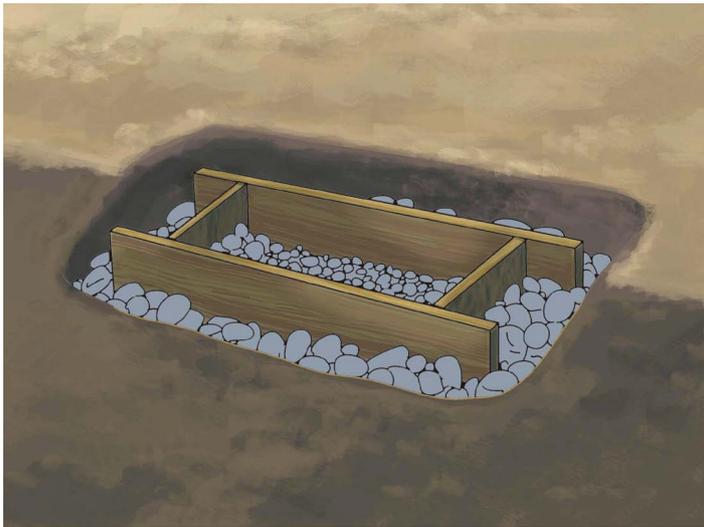
やなぎさわ
柳沢遺跡
(中野市)地図-1

昨年度発見された青銅器埋納坑(せいどうきまいのうこう)の約40m北側で、礫床木棺墓群がみつかりました。

礫床木棺墓は、弥生時代の中期後半以降に作られた墓です。棺(ひつぎ)の底にあたる部分に石を敷き詰めて床を作り、その周りに板を立て、棺としたと考えられています。

墓は、現在17基が確認されていて、それらは約20mの範囲内にまとまっています。特に中央部にある墓は大型で方形をしています。一辺は約2mもあり、直径5cm程度の川原石が床に敷き詰められています。この中からは50点を越える数の管玉(くだたま)が発見されています。その周りを囲むように作られている墓は小型で、長さ約1.5m、幅約0.6mの長方形です。

この墓群と青銅器埋納坑は、お互いの位置や時期からみて極めて密接な関係がうかがえます。



礫床木棺墓の想定図



礫床木棺墓群

砂に覆われた水田跡

かみこみょうじょうりすいでんし
上五明条里水田跡
(坂城町)地図-4

4月に銅鏡(どうきょう)や鉄鐸(てったく)がみつかった平安時代後期(約1000年前)の層の下、地表から約1.5mの層から、古代の水田跡がみつかりました(写真上)。

この水田跡は、20~60cmの厚い砂に覆われています。これば類聚三代格(るいじゅうさんだいきやく)」などの文献に記されている仁和(にんな)4年(西暦888年)の大洪水によって運ばれてきた砂ではないかと考えられます。

調査で砂を取り除いていくと、畦(あぜ)の高まりや水田面の凹凸があらわれ、洪水前の様子わかりました(写真下)。畦は、ほぼ南北方向のものなど10条が確認でき、水路跡もみつかりました。水路跡にともなう土手には、水田に水を取り入れる「水口(みなくち)」と思われる箇所もあり、この水路跡が水田に関係するものであることもわかりました。



厚く堆積した砂の層



現在の水田と古代の水田跡

今年度も長野県埋蔵文化財センターは、県内各地で発掘調査を行っています。4月から現在までに、発掘されたおもな遺跡の紹介をします。

古墳時代の居住域と墓域を調査 ちかつ 近津遺跡群 (佐久市) 地図-5

昨年度より発掘調査をおこない、縄文時代(数千年前)の人々が狩りのために掘った陥(おと)し穴や、古墳時代前半(約1700年前)の集落跡と墓跡、平安時代(約1100年前)の集落跡など、いろいろな時代の遺構がみつかっています。

このうち、もっとも多く発見されているのは古墳時代前半のもので、四角い竪穴(たてあな)の中央付近に「いろり」を設けた住居跡や、円形周溝墓(えんけいしゅうこうぼ)などがみつかっています。

円形周溝墓は、円形に溝をめぐらせた墓で、溝を掘った土を内側に盛り上げ、その中央に長方形の墓あなを設けます。この中に木で棺を組み遺体を横たえます。このような墓はムラの中でも特別な人が葬られたものと考えられます。

今回の調査では2基を発見しましたが、住居跡が発見された場所からは離れた位置に、並ぶように造られていて、墓と居住空間が区別されていたことがわかります。また、2基のうち1基は墓あなが残っていて、中から鉄製品が出土しました。

このように、古墳時代前半の居住域と墓域を同時に調査でき、当時のムラの様子を考える上で貴重な成果となりました。



円形周溝墓

底に『大井』と刻まれた つぼ 壺 西近津遺跡群 (佐久市) 地図-6

奈良時代頃(約1200年前)、集落の北側を流れていた川跡から「大井」と記された須恵器がみつかりました。壺の底部のかけらで、川底の砂利に混ざり込んでいました。文字は土器を焼く前に、縦書きで「大井」と刻まれています。ほかにも竪穴住居跡などから「大井」と墨で書かれた土器片が4点みつかっています。

古代佐久郡には8つの郷(ごう)があったと『和名抄(わみょうしょう)』に記録されています。しかし、いずれの郷も現在のどの場所にあたるのか確証はありません。そのひとつは「大井郷(おおいのごう)」があります。佐久市教育委員会がおこなった隣接する周防畑(すぼうばた)遺跡群の発掘調査でも、「大井」と記された土器が7点発見されています。

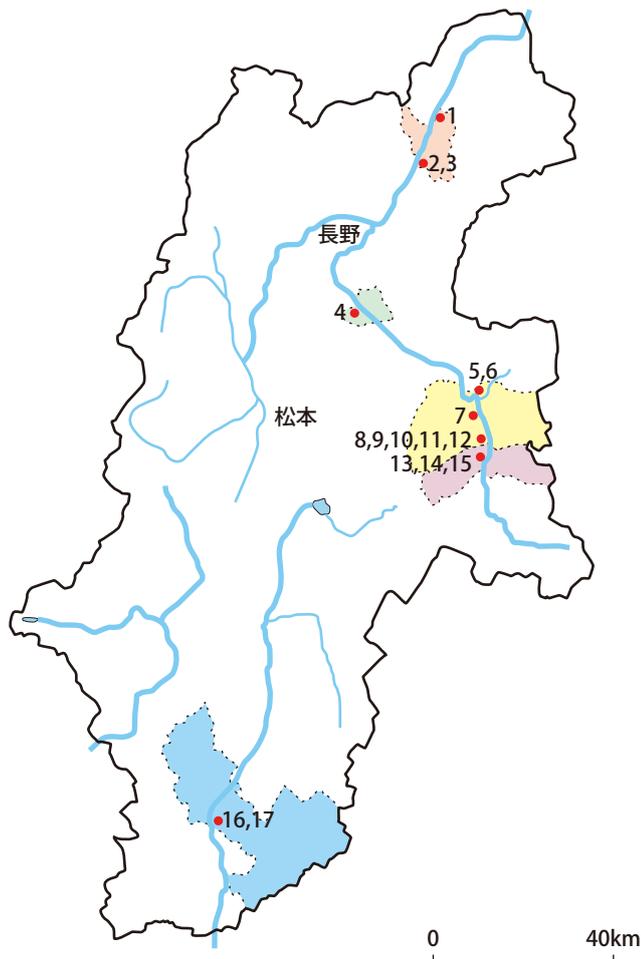
須恵器に刻まれた「大井」は、土器の所有者やその居住地を示しているのでしょうか。1200年以上前、この地は「大井」と名のる氏族が暮らしていたのか、あるいはこの地が「大井(郷)」と呼ばれていたのか…。

西近津遺跡群では、3年間で600軒の竪穴住居跡を調査してきました。幾世代にもわたって地域の中心的な集落が営まれてきた理由を考え、土器に残された二文字が問いかける謎の答えを見つけていきたいと思います。



壺の底に刻まれた「大井」

平成 20 年度の発掘調査遺跡



No	遺跡名	所在地
1	柳沢遺跡	中野市
2	立ヶ花表遺跡	中野市
3	沢田鍋土(さわだなべつち)遺跡	中野市
4	上五明条里水田址	坂城町
5	近津遺跡群	佐久市
6	西近津遺跡群	佐久市
7	東山(ひがしやま)遺跡	佐久市
8	台ヶ坂(だいがさか)遺跡	佐久市
9	上滝(かみたき)・中滝(なかたき)・ 下滝(しもたき)遺跡	佐久市
10	家浦(やうら)遺跡	佐久市
11	田島(たじま)古墳	佐久市
12	水堀(みずぼり)古墳	佐久市
13	奥日影(おくひかげ)遺跡	佐久穂町
14	小山寺窪(こやまてらくぼ)遺跡	佐久穂町
15	上野月夜原(うえのつきよばら)遺跡	佐久穂町
16	下村(しもむら)遺跡 [鶯ヶ城跡(うぐいすがじょうあと)]	飯田市
17	芦ノ口(あしのくち)遺跡	飯田市

埋文ニュース

9月20日(土)・21日(日)の二日間、柳沢遺跡で現地説明会を行いました。

両日は、運動会やお祭りなど地域の行事と重なり、加えて天候にも恵まれませんでした。地元の方々はもちろん遠方からも足を運んでいただき、見学者は250名となりました。

今回の現地説明会では、弥生時代のお墓である礫床木棺墓群や弥生時代の水田跡、新たに発見された銅鐸の破片などに多くの関心が集まりました。



INFORMATION

平成20(2008)年度の展示会の予定

○県庁ロビー展

内容:遺跡紹介・遺物展示

場所:長野県庁1階

期日:2月25日(水)～3月6日(金)

○屋代駅ギャラリー展

内容:遺跡の写真パネル展示

場所:千曲市屋代駅市民ギャラリー

期日:3月17日(火)～3月25日(水)

野 帳

各地で、発掘調査の最盛期を迎え、いろいろな成果が上がってきています。また、センターの整理室内でも発掘調査が終了した遺跡の整理作業が佳境に入っています。今年度の成果は来年度に行われる速報展でのお披露目となります。

財団法人 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
E-mail maibun@grn.janis.or.jp
HP <http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>